

子どもの居場所ニーズ調査結果

1 調査の概要

① 調査の目的

子どもの貧困対策の下に実施されたニーズ調査であり、石垣市内の全小中学生の家庭を対象に「子どもの居場所」の実態や、保護者のニーズを把握し、今後の児童福祉施策の充実のための基礎資料とする。

② 調査の実施

- (1)調査対象： 石垣市内の小中学生の子の居る世帯
- (2)配布数： 5,018 件 ※H28年12月現在の小中学校の生徒数
〈内訳〉 小学校：3,483件、中学校：1,535件
- (3)回収数： 2,532件
- (4)回収率： 50.5%
- (5)実施期間： 平成28年12月12日 ～ 平成29年1月13日
- (6)調査方法：
 - 1) 調査票は、市内の小中学校に配布し、各学校より保護者へ配る。
 - 2) 回答済みの調査票は随時、児童の担任及び各学校の回収担当者にて集められる。
 - 3) 実施期間終了後、児童家庭課職員により学校から調査票を回収する。

③ 結果の見方

- ・ 回答結果の割合(%)は、回答数の割合を小数点第2位で四捨五入しているため、単数回答であっても、合計数が100%にならない場合があります。
- ・ 複数回答の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、割合をだしています。そのため、合計が100%を超える場合があります。
- ・ 表や図中で、選択肢の文章が長いものは省略して載せている場合があります。また「N」は集計の対象者数(設問の限定条件に該当する人の数)を表しています。

2 調査結果

◆ アンケート回答のあった児童の学年

- ・小中学生の学年総数(5,018名)は、平成28年12月時点のもの。
- ・この項目は設問しておらず、学校担当者が調査票を回収した際に、可能な限り学年別に分類した結果である。
- ・学年不明のものを除いて、小学校で最も回答の多かった学年は「小学3年」(6.8%)であり、最も少なかった「小学6年」(2.9%)と3.9ポイントの差である。また、中学校の場合は最多が「中学2年」(4.9%)であり、残り二学年(同率：2.6%)と2.3ポイントの差であった。
- ・市内の全小学生(3,483人)のうち、57.7%にあたる2,008人の回答があり、全中学生(1,535人)のうち、34.1%にあたる524人の回答があった。

学年	回答数	構成比	学年別総数(人)	回答数/総数
小学1年	141	5.6%	581	24.2%
小学2年	152	6.0%	629	24.2%
小学3年	171	6.8%	610	28.0%
小学4年	103	4.1%	559	18.4%
小学5年	129	5.1%	544	23.7%
小学6年	74	2.9%	560	13.2%
小学(学年不明)	1238	48.9%		
小計(小学生)	2,008	79.40%	3,483	57.7%
中学1年	67	2.6%	508	13.2%
中学2年	124	4.9%	497	23.4%
中学3年	67	2.6%	530	12.6%
中学(学年不明)	266	10.5%		
小計(中学生)	524	20.6%	1,535	34.1%
合計	2,532	100.0%	5,018	50.5%

①家族構成について

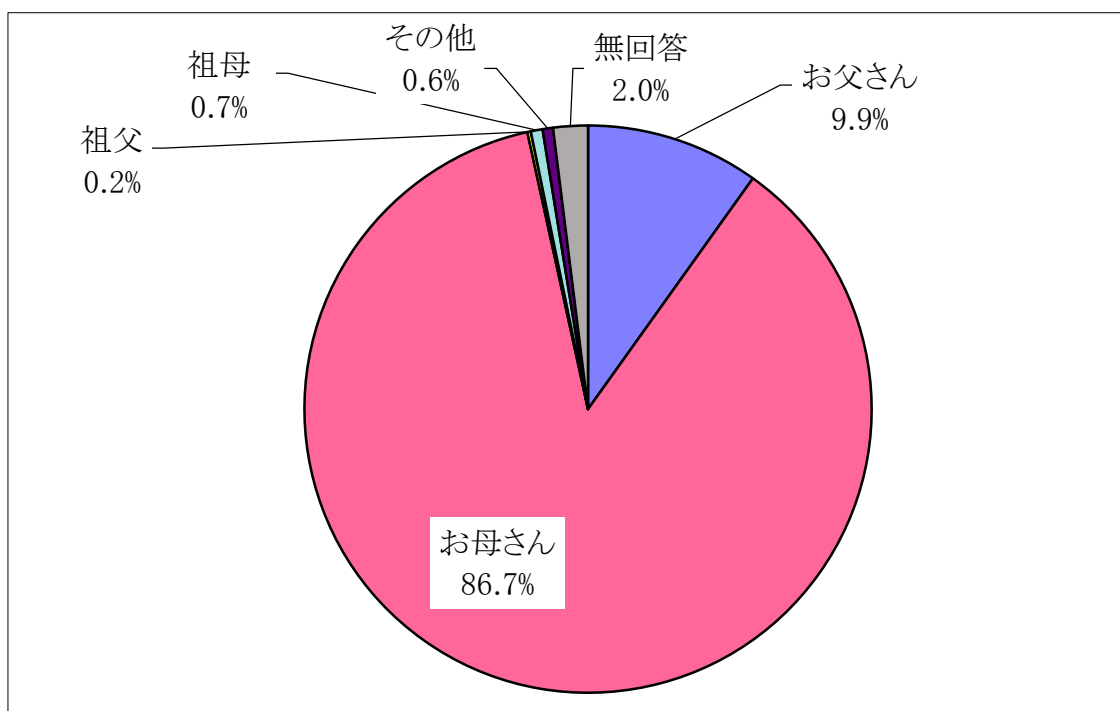
①-1 家族構成における保護者の区分

- ・総計として最も回答の多かったものは「二人親世帯」(78.8%)で、その次に「母子家庭」(16.0%)と続き、「父子家庭」(2.0%)や「養育者」(3.2%)は一桁台に留まった。

世帯種別	全体(N=2,480)	小学生(N=1,977)	中学生 (N=503)
二人親世帯	78.8%	80.3%	73.2%
母子世帯	16.0%	15.1%	19.3%
父子世帯	2.0%	1.5%	3.8%
養育者(祖父母・ 親族など)世帯	3.2%	3.1%	3.8%
合計	100.0%	100.0%	100.1%

①-2 回答者の区分

- ・下図のとおり、全回答者のうちおよそ9割が「母親」(86.7%)によって記入されており、そのことから、本アンケートは保護者の中でも母親目線による回答が主だったものと捉えられる。



①-3 回答した世帯の居住地区

- ・総計として最も回答の多かった地区は「登野城」(19.5%)で、次に「新川」(17.5%)、「大浜」(13.1%)の順となっている。
- ・アンケート回収時、小学校(全体 2,008 人)において最も回答の多かったのは「平真小」(19.4%)であり、次に「登野城小」(16.8%)、「新川小」(13.0%)、「大浜小」(12.8%)の順である。
- また中学校(全体 524 人)では、最多が「石垣中」(30.5%)、次に「石垣第二中」(29.4%)、「大浜中」(26.9%)の順となっている。

地区	全体(N=2,478)	小学生(N=1,970)	中学生(N=508)
大浜	13.1%	12.8%	14.4%
真栄里	9.4%	9.4%	9.4%
平得	5.6%	5.9%	4.5%
登野城	19.5%	19.8%	18.5%
八島町	0.4%	0.4%	0.6%
美崎町	0.6%	0.6%	0.8%
浜崎町	1.9%	2.2%	0.8%
新栄町	4.2%	4.2%	4.3%
名蔵	1.4%	1.4%	1.2%
大川	5.9%	5.7%	6.9%
石垣	5.3%	5.1%	6.1%
新川	17.5%	17.2%	18.5%
桃里	1.5%	1.8%	0.0%
白保	3.3%	3.7%	1.8%
宮良	4.3%	4.6%	3.1%
平久保	0.4%	0.4%	0.6%
伊原間	1.0%	0.8%	2.2%
野底	1.4%	0.1%	3.0%
桴海	0.4%	0.5%	0.4%
崎枝	0.5%	0.3%	1.2%
川平	2.2%	2.3%	1.8%
合計	100.0%	99.2%	100.1%

2 お子さんの放課後や休日の居場所について

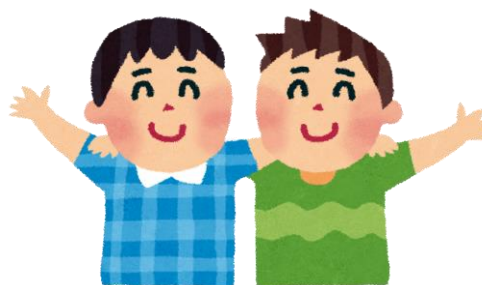
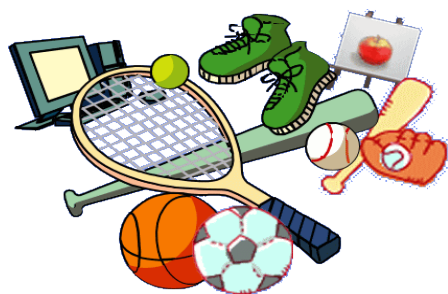
②-1 児童の放課後や休日の過ごし方について。1週間(7日間)のうち3日以上の過ごし方ではまるもの。(複数回答可)

・総計として最も多かった回答は「自宅」(37.6%)であり、次いで「クラブ活動」(22.0%)、「塾や習い事」(16.6%)の順となっている。

活動場所	全体(N=4,086)	小学生(N=3,278)	中学生(N=808)
塾や習い事	16.6%	17.2%	14.4%
クラブ活動	22.0%	17.9%	38.5%
学童	3.5%	4.3%	0.2%
子どもセンター	1.2%	1.5%	0.2%
自宅	37.6%	37.8%	36.8%
友人宅	8.0%	8.7%	5.1%
公園	5.3%	6.2%	1.5%
その他	5.9%	6.5%	3.3%
合計	100.0%	100.1%	100.0%

「その他」(回答数 240 件)についての自由記述 (上位回答)

- ・祖父母宅 (67 件)
- ・学校 (16 件)
- ・両親または祖父母の職場 (10 件)
- ・近所や団地、公民館 (7 件)



②—2 児童が1週間のうち、放課後や休日に一人きりで過ごす日数について

- ・総計として最も多かった日数は「一人きりになることはない」(72.1%)、次に「1日間」(10.4%)、「2日間」(5.8%)の順となっている。
- ・「6～7日間」一人きりと回答した児童のうち、小学生(併せて1.4%)が28人(1,994人中)、中学生(併せて2.0%)が10人(519人中)となっている。(青枠参照)

日数	全体(N=2,513)	小学生(N=1,994)	中学生(N=519)
1日間	10.4%	8.4%	17.9%
2日間	5.8%	6.2%	4.4%
3日間	4.1%	4.2%	3.8%
4日間	1.8%	1.7%	2.1%
5日間	4.3%	4.4%	3.9%
6日間	1.0%	1.0%	1.0%
7日間	0.5%	0.4%	1.0%
一人きりになることはない	72.1%	73.7%	65.7%
合計	100.0%	100.0%	99.8%

②—3 児童の放課後や休日に安心して過ごせる「子どもの居場所」は必要だと思うか

- ・総計として最も多い回答は「必要である」(88.3%)であり、小・中ともに高い需要があることが示されている。
- ・小学校の低学年ほど需要が高く、小学1年の場合、95%の回答者が必要と答えている。

選択項目	全体(N=2,507)	小学生(N=1,991)	中学生(N=516)
必要である	88.3%	90.3%	80.4%
必要と思わない	7.8%	5.8%	15.5%
その他	3.9%	3.9%	4.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

「その他」についての自由記述 (一部抜粋)

- ・「自身の子には必要ないが、必要としている家庭があるのではないかと思います」
- ・「小学低学年は特に必要だ」
- ・平日の放課後に「居場所」があると助かる、一方で土日など休日は家族で過ごすことも大事だと思う。

②-4 回答者の居住地区に児童館のような、放課後や休日の子どもの居場所になる施設がありますか。

- ・総計として最も多い回答は「ない」(43.6%)であり、次に「わからない」(36.1%)、「ある」(20.4%)の順となった。

選択項目	全体(N=2,460)	小学生(N=1,959)	中学生(N=501)
ある	20.4%	22.0%	14.0%
ない	43.6%	44.2%	41.1%
わからない	36.1%	33.8%	44.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

「ある」(回答数 501 件)の自由記述 (上位回答)

- ・子どもセンター (367 件)
- ・とびだせ児童館(真喜良第二団地内) (102 件)
- ・図書館 (13 件)
- ・学童や公民館 (30 件)

②-5 居住地区に「子どもの居場所」を設置するとしたら、どのような場所がよいか。

- ・総計として最も多い回答が「学校内の空き教室など」(44.8%)、次に「学校の近辺」(31.8%)、「公民館」(22.1%)の順となっている。
- ・需要として、子どもの居場所は学校に近ければ近いほど好ましいという結果がうかがえる。

選択項目	全体(N=2,498)	小学生(N=1,989)	中学生(N=509)
学校内の空き教室など	44.8%	46.5%	37.9%
学校の近辺	31.8%	31.3%	33.8%
公民館	22.1%	20.9%	26.9%
その他	1.3%	1.3%	1.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

「その他」についての自由記述 (一部抜粋)

- ・老人ホームや地域の古民家
- ・「公民館に設置して、地区の大人や活動団体(婦人会など)のご協力いただいで運営していけたらいいと思う」

②-6 「子どもの居場所」の活動として、特にやってほしいこと

- ・総計として最も多い回答は「学びの支援」(61.5%)、次に「遊びの支援」(31.2%)の順となっている。
- ・低学年ほど「遊びの支援」の需要が高く、小学1年では45.3%で同学年の「学びの支援」(50.7%)とほぼ同等のものとなっている。

選択項目	全体(N=2,548)	小学生(N=2,052)	中学生(N=496)
遊びの支援	31.2%	34.3%	18.3%
学びの支援	61.5%	59.4%	70.4%
生活の支援	2.9%	2.4%	5.0%
食事の支援	2.4%	2.2%	3.2%
その他	2.0%	1.8%	3.0%
合計	100.0%	100.1%	99.9%

「その他」についての自由記述（一部抜粋）

- ・ 伝統芸能
- ・ 地域行事への参加や異年齢の子との交流
- ・ 習字やピアノ、スポーツなど

②-7 「子どもの居場所」を利用するとしたら、どれくらいの期間、児童を預けたいか

- ・総計として最も多い回答が「長期休暇の間」(46.0%)で、次に「1年間」(32.9%)の順となった。
- ・質問項目にはないが、要望として「いつでも(必要なときに)利用できたら良い」との意見が挙がり、その場合は「短期間」と同等のものとして計上した。

選択項目	全体(N=2,434)	小学生(N=1,948)	中学生(N=486)
1年間（通年）	32.9%	35.6%	22.0%
長期休暇（夏休みなど）の間だけ	46.0%	46.3%	45.0%
短期間（入学や転校のあと、子が学校に慣れるまで）	6.0%	5.5%	8.0%
利用しようと思わない	15.0%	12.6%	24.9%
合計	100.0%	100.0%	99.9%

②-8 (上記②-7)で「利用しようと思わない」と回答した方への設問。)

子どもの居場所を利用しようと思わないことに理由があるか。

- ・総計のうち「その他」(44.3%)を除いて最も多い回答が「施設が近場がない」(22.1%)で、次に「子を送迎することができない」(18.7%)の順となった。
- ・下記「②-8 関連項目」を踏まえたうえで、子どもの居場所を「利用しない」のではなく「利用したくてもできない」状況にあるとうかがえる。

選択項目	全体(N=402)	小学生(N=283)	中学生(N=119)
施設が近場がない	22.1%	21.9%	22.7%
子を送迎することができない	18.7%	21.2%	12.6%
通わせることが不安(事件・事故、トラブルなど)	14.9%	15.5%	13.4%
その他	44.3%	41.3%	51.3%
合計	100.0%	99.9%	100.0%

②-8 関連項目

「子どもの居場所」を「必要である」と回答したうえで、「(子どもの居場所)利用しようと思わない」と答えた方の理由について。

選択項目	利用しようと思わない(N=275)
施設が近場がない	25.8%
子を送迎することができない	20.0%
通わせることが不安(事件・事故、トラブルなど)	16.0%
その他	38.2%
合計	100.0%

「その他」(回答数 141 件)の自由記述(上位回答)

- ・「自身の子が(小学・中学)高学年のため、必要と思わない」(32 件)
- ・「既に子にとっての居場所がある(自宅や友人、部活動など)」(32 件)
- ・「見てくれる親族(祖父母)が居るから必要ない」(23 件)
- ・「親子の時間や、子が一人になれる時間を大切にしたいので必要ない」(9 件)

②-9 居住地区に「子どもの居場所」があれば、その運営にボランティアとして、協力してもいいと思うか。

- ・総計として最も多い回答が「都合がつけば協力してもいい」(57.0%)となり、次に「協力は難しい」(39.0%)、「ぜひ協力したい」(4.1%)の順となった。
- ・今後、地域に子どもの居場所をつくり、維持していくためには、その地域の方のボランティアの存在が必要不可欠と思われる。

質問項目	全体(N=2,421)	小学生(N=1,930)	中学生(N=491)
ぜひ協力したい	4.1%	4.0%	4.3%
都合がつけば協力してもいい	57.0%	58.7%	50.3%
協力は難しい	39.0%	37.3%	45.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

